

金星日面経過の長崎での観測を記念して

佐 藤 隆 夫*

1874年(明治7年)12月9日に金星日面経過の観測が日本各地で行なわれてからちょうど満100年にあたる、1974年(昭和49年)12月8日(日曜日)に、長崎県地学会では先人の遺徳を偲ぶため、長崎市金刀比羅山にある記念碑を訪れ、そこで記念講演と調査を行った。

この観測についての刻明な調査は、斉藤国治元東京大学教授が東京天文台報第11巻1号、2号に発表されている。記念碑は砂岩で作られていることも記されているが、今回の調査の結果が何かの参考になればと思い、ここに記しておく。長崎では二種の砂岩を使用しており、

* 長崎大学教育学部

砂粒の細かいのは五島列島から運び名物の石畳に使用、その他の用途には砂粒の粗い天草産のものを用いている。金刀比羅山には安山岩だけしか無い。安山岩は硬いので刻字した場合に摩耗しにくい、石塊本体に亀裂が生じ易い。砂岩は刻字は容易であるが摩耗が早い。

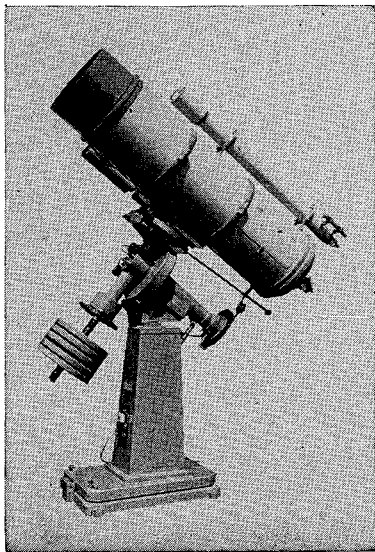
金刀比羅山の記念碑は、砂粒の粗い天草産の砂岩が使用してある。もし五島列島産の砂粒の細かい砂岩を用いれば現在程には摩耗しなかったであろうことが考えられる。その他に碑面の方向などにも疑問が残るが、これは現在では調査すべくもなく、永久の謎となる。

人物往来

◇イタリアのアジアゴ天文台長ロジノ(L. Rosino)氏が1974年11月中旬から12月初めにかけて約3週間日本を訪問し、東京天文台・堂平観測所・岡山天体物理観測所等を見学した。ロジノ氏はシュミット望遠鏡を使

って、新星の発見やフレアー星の発見を精力的に行っている。

◇アメリカのスミソニアン天文台の技術主任のパールマン(M. Parlman)氏が1975年1月に堂平観測所のペーカー・カメラによる観測の連絡・打合せのため、東京天文台を訪問した。



天体望遠鏡
ドーム、製作

西村製の天体望遠鏡

40 cm 反射望遠鏡の納入先

- | | |
|--------|----------------------|
| No. 1 | 富山市立天文台 |
| No. 2 | 仙台市立天文台 |
| No. 3 | 東 京 大 学 |
| No. 4 | ハーバート大学 (USA) |
| No. 5 | ハーバート大学 (USA) |
| No. 6 | 台北天文台 (TAIWAN) |
| No. 7 | 北イリノイズ大学 (USA) |
| No. 8 | サン・ジェゴ大学 (USA) |
| No. 9 | 聖アンドリュース大学 (ENGLAND) |
| No. 10 | 新潟大学高田分校 |
| No. 11 | ソウル大学 (KOREA) |
| No. 12 | 愛知教育大学(刈谷) |

606 京都市左京区吉田二本松町 27

株式会社 西村製作所

TEL. (075) 771-1570
691-9580